

市数研だより

令和3年2月26日発行 NO. 4 熊本市中学校数学教育研究会

2月の定例会が2月18日(木)に三和中学校で行われました。通常の定例会の活動としては今年度最後となりました。今回もZOOMを使って11月に予定されている県大会に向けた授業づくりを行いました。

1. あいさつ

市数研会長(三和中学校 出崎校長先生)

今年度の市数研の定例会は、3月に徳永校長先生に講話をしていただく予定になっていますが、通常の活動としては今月で最後になります。

私がサッカーの指導をしていて大切に考えていた1つに、「起点をつくる」というものがあります。起点というのは、敵からボールを奪って攻撃を始めることです。よい起点となるための条件には、「前を向いていること」「顔が上がっていて、より遠くを見ていること」「周りも動き出していること」などがあります。

今年の市数研の活動を振り返ると、コロナウィルスの感染拡大予防のために、守りの1年だったと思います。

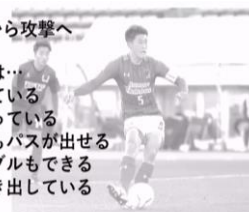
今後、これまでのように活動できるようになったときに、我々自身が前を向き、顔を上げて、周りも動き出している状態ができていれば、きっと市数研の活動もうまくいくと思います。今は、そのための準備をしていく時期なのかなと思います。

今日もたくさんの先生に定例会に参加してもらっています。1年間活動が続けることができたことに感謝したいと思います。



起点…守りから攻撃へ

よい起点とは…
前を向いている
顔が上がっている
どこにでもパスが出せる
自らドリブルもできる
周りが動き出している



2. ブロック別検討

今回もそれぞれのブロックに分かれて、ZOOMを使いながら県大会に向けた授業づくりを行いました。



3. まとめ

各部会の責任者の先生からの活動報告です。

1年A部会…授業者の後藤先生が新しいワークシートで行った授業について振り返り、発問などを検討した。

1年B部会…授業者の末藤先生が附属中学校で事前研を2回実施した。その授業を録画したものをもとに、子どもたちが主体的に動くための手立てについて検討した。

2年A部会…骨の長さから身長を推測する授業を考えている。班活動が制限される中でも、共同学習ができるようなシステムを検討している。データを集めた後に、深い学びへどう繋げていくかを授業者がしっかりと考えを持っておきたい。

2年B部会…17段の不思議で授業を考えている。どのような数学的な見方・考え方を働かせるか、そのためにどういう手立てがあるかを検討した。

3年A部会…ビリヤードの跳ね返りを相似な図形で解決する授業を考えている。相似を使って解決できるという面白さを実感させたいというねらいがある。

3年B部会…関数 $y = ax^2$ の利用の授業を考えている。授業者の工藤先生が事前研を2回実施した。多様な考え方の取り上げ方、授業の進め方について検討した。

◎熊本大学 吉村先生より

NHKのサイエンスゼロという番組で、マイクロ波を使ってガンを発見するという機械が取り上げられていました。これまでは、物体の正体が分かっていたら反射してくるマイクロ波の形も分かるが、波の形が分かっても何の物体に当たったのかは分かりませんでした。波の形からどういう物体に当たったのかを解き明かすのに使われたのが、数学でした。



今日の授業検討会でも、子どもたちに数学のよさを気づかせたいという思いが伝わってきました。そのような子どもたちが育ってくれるといいなと思いました。今日も先生方とともにいろいろと勉強させていただきました。今後ともよろしくお願いします。

4. お知らせ

次回の定例会は、**3月17日(水)19時～** **白川中学校**

実施方法については、改めてご連絡いたします。

今後、各ブロックで事前研をする場合は飽田中学校の越地先生までご連絡ください。

ご質問やご感想がありましたら、下記のアドレスまでお願いします。

shiiba.masahiro@kumamoto-kmm.ed.jp

- ・定例会へ多数の先生方のご参加をお願いします！！
- ・各学校から**1名以上の参加**をぜひともお願いします！！
- ・特に若手の先生方、遠慮せずに参加して、市数研の底上げを図っていきましょう。主任の先生方、呼びかけをよろしくお願いします。

文責 錦ヶ丘中学校 椎葉 将大